

5. 胃部検診有所見者状況

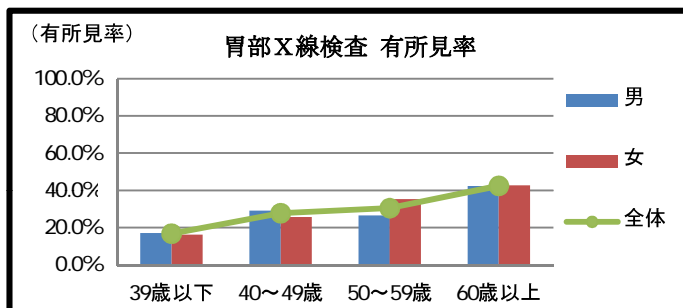
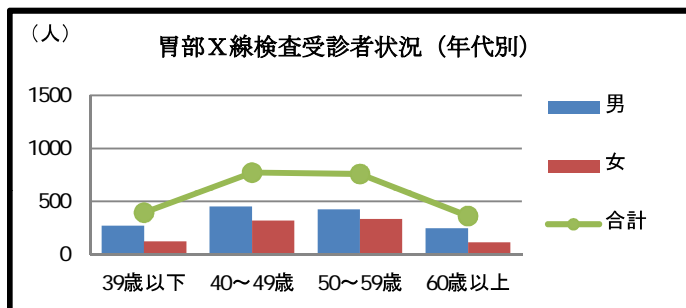
～2011年度結果～

以下のデータは、当法人における胃部（X線及び内視鏡）検査の実施状況である。

■ 胃部（X線）検査受診者状況

(注) 有所見者とは、経過観察、要治療、要精査、治療継続に該当する者をいう。

年代・性	受診者数		胃部X線検査結果内訳(人)					有所見者数	有所見者率	
			異常なし	軽度異常	経過観察	要治療	要精査			
30代以下 男	271	395	211	14	39		7	46	17.0%	16.7%
女	124		92	12	17		3	20	16.1%	
40代 男	453	772	303	18	112		20	132	29.1%	27.7%
女	319		195	42	76		6	82	25.7%	
50代 男	425	759	278	34	101		12	113	26.6%	30.4%
女	334		162	54	114	1	3	118	35.3%	
60代以上 男	248	363	124	19	81	1	23	105	42.3%	42.4%
女	115		54	12	45		4	49	42.6%	
合計	2,289		1,419	205	585	2	78	665	29.1%	



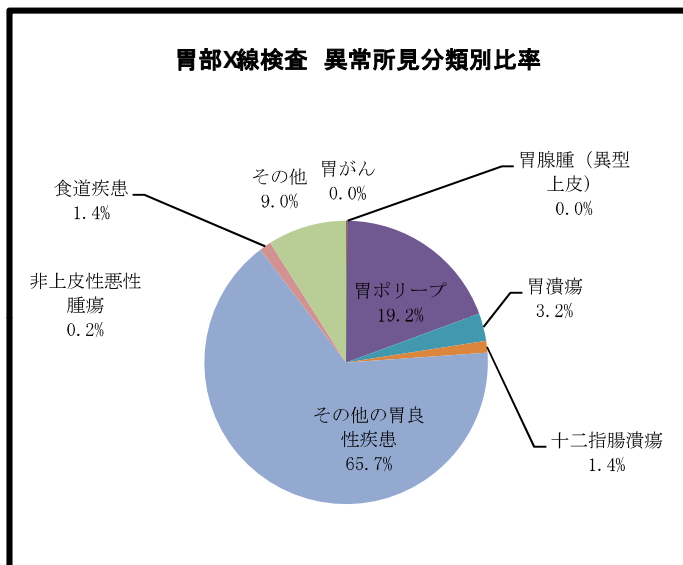
■ 異常所見別人数 (疑いも含む)

(注) 所見事由が1人複数ある場合は、主な所見をあげている。

所見事由	分類	人数	所見事由率
萎縮性胃炎	⑦	324	48.72%
ポリープ	④	128	19.25%
慢性胃炎	⑦	77	11.58%
胃下垂	⑦	27	4.06%
胃潰瘍	⑤	21	3.16%
隆起性病変	⑨	16	2.41%
胃陥凹性病変	⑨	10	1.50%
十二指腸潰瘍	⑥	9	1.35%
術後胃	⑨	9	1.35%
十二指腸憩室	⑨	5	0.75%
食道腫瘍	⑧	4	0.60%
びらん	⑦	4	0.60%
下垂胃	⑦	3	0.45%
逆流性食道炎	⑧	3	0.45%
粘膜不整	⑨	3	0.45%
憩室	⑦	2	0.30%
胆摘後	⑨	2	0.30%
バリウム斑	⑨	2	0.30%
壁外性圧排像	⑨	2	0.30%
食道裂孔ヘルニア	⑧	1	0.15%
食道憩室	⑧	1	0.15%
辺縁不整	⑨	1	0.15%
腫瘍性病変	⑨	1	0.15%
条件不良	⑨	1	0.15%
伸展不良	⑨	1	0.15%
バリウム付着不良	⑨	1	0.15%
ひだ集中	⑨	1	0.15%
胃外石灰化像胆石	⑨	1	0.15%
胃静脈瘤	⑨	1	0.15%
胃粘膜下腫瘍	②	1	0.15%
二重輪郭	⑨	1	0.15%
粘膜肥厚	⑨	1	0.15%
瀑状胃	⑨	1	0.15%
異常所見者(人・率)		665	29.05%

■ 異常所見分類別表

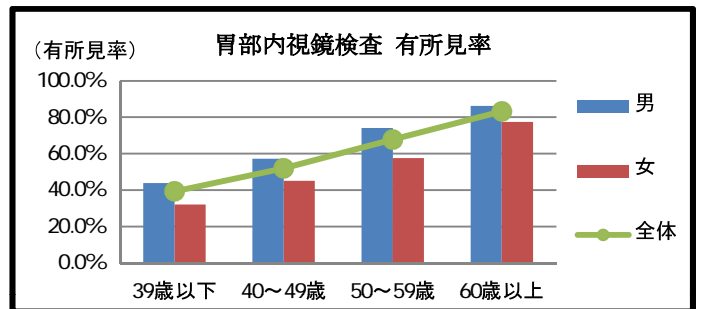
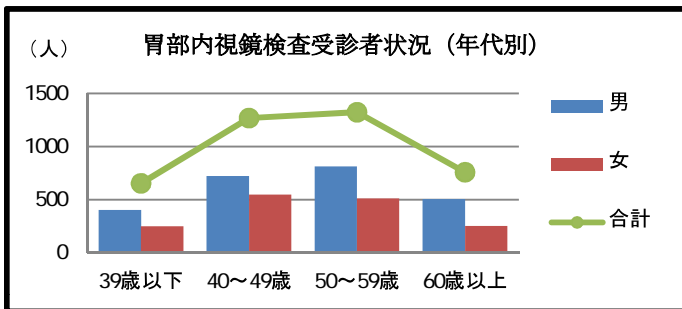
分類	疾患名	人数	発見率
①	胃がん	0	0.0%
②	非上皮性悪性腫瘍	1	0.2%
③	胃腺腫(異型上皮)	0	0.0%
④	胃ポリープ	128	19.2%
⑤	胃潰瘍	21	3.2%
⑥	十二指腸潰瘍	9	1.4%
⑦	その他の胃良性疾患	437	65.7%
⑧	食道疾患	9	1.4%
⑨	その他	60	9.0%



■ 胃部（内視鏡）検査受診者状況

(注) 有所見者とは、経過観察、要治療、要精査、治療継続に該当する者をいう。

年代・性	受診者数		胃管内視鏡検査結果内訳（人）						有所見者数	有所見者率	
			異常なし	軽度異常	経過観察	要治療	要精査	治療継続			
30代以下 男	403	653	179	47	162	9	4	2	177	43.9%	39.4%
女	250		150	20	76	2	2	80		32.0%	
40代 男	722	1,268	245	64	380	23	7	3	413	57.2%	52.0%
女	546		272	28	231	8	7	246		45.1%	
50代 男	813	1,323	165	45	558	29	11	5	603	74.2%	67.8%
女	510		190	26	286	1	6	1		294	
60代以上 男	506	758	56	14	398	17	19	2	436	86.2%	83.2%
女	252		50	7	189	1	5	195		77.4%	
合計	4,002		1,307	251	2,280	90	61	13	2,444	61.1%	



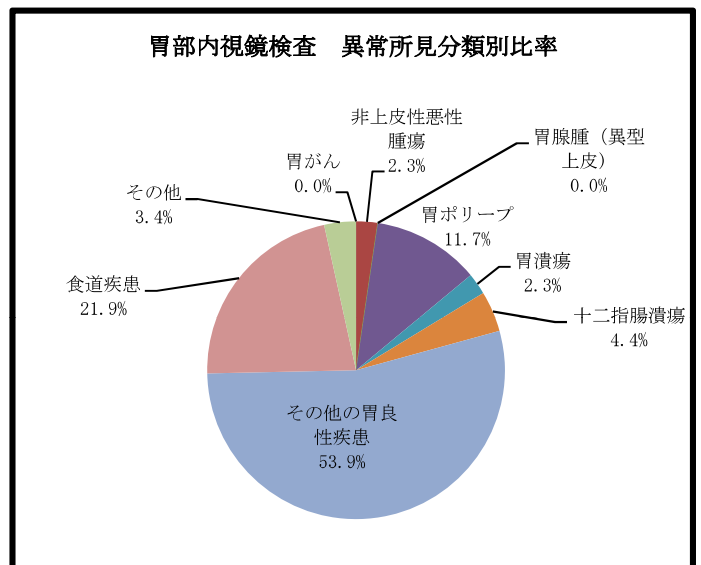
■ 異常所見別人数（疑いも含む）

(注) 所見事由が1人複数ある場合は、主な所見をあげている。

所見事由	分類	人数	所見事由率
萎縮性胃炎	⑦	955	39.08%
ポリープ	④	285	11.66%
びらん	⑦	231	9.45%
逆流性食道炎	⑧	206	8.43%
食道裂孔ヘルニア	⑧	203	8.31%
十二指腸潰瘍	⑥	108	4.42%
バレット食道	⑧	60	2.45%
胃潰瘍	⑤	57	2.33%
胃粘膜下腫瘍	②	57	2.33%
慢性胃炎	⑦	51	2.09%
バレット上皮	⑧	50	2.05%
胃粘膜萎縮	⑦	36	1.47%
表層性胃炎	⑦	32	1.31%
術後胃	⑨	26	1.06%
十二指腸炎	⑨	22	0.90%
食道カンジダ症	⑧	9	0.37%
萎縮性変化	⑨	7	0.29%
鳥肌胃炎	⑦	7	0.29%
隆起性病変	⑨	6	0.25%
条件不良	⑨	5	0.20%
胃憩室	⑦	4	0.16%
毛細血管拡張	⑨	3	0.12%
胃陥凹性病変	⑨	3	0.12%
カンジダ食道炎	⑧	2	0.08%
異所性胃粘膜	⑦	2	0.08%
食道のう腫	⑧	2	0.08%
粘膜不整	⑨	2	0.08%
迷入腺	⑨	2	0.08%
Ⅱa様	⑨	1	0.04%
残胃	⑨	1	0.04%
食道腫瘍	⑧	1	0.04%
治療後	⑨	1	0.04%
食道乳頭腫	⑧	1	0.04%
食道粘膜下腫瘍	⑧	1	0.04%
体部ヒダ肥厚	⑨	1	0.04%
粘膜発赤	⑨	1	0.04%
鼻中隔穿孔	⑨	1	0.04%
平滑筋腫	⑨	1	0.04%
壁外性圧排像	⑨	1	0.04%
異常所見者（人・率）		2,444	61.07%

■ 異常所見分類別表

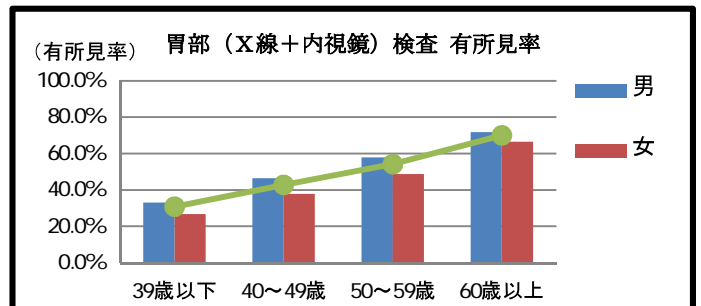
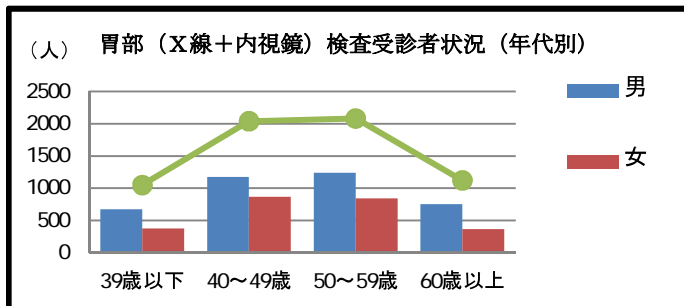
分類	疾患名	人数	発見率
①	胃がん	0	0.0%
②	非上皮性悪性腫瘍	57	2.3%
③	胃腺腫（異型上皮）	0	0.0%
④	胃ポリープ	285	11.7%
⑤	胃潰瘍	57	2.3%
⑥	十二指腸潰瘍	108	4.4%
⑦	その他の胃良性疾患	1,318	53.9%
⑧	食道疾患	535	21.9%
⑨	その他	84	3.4%



■ 胃部（X線＋内視鏡）検査受診者状況

(注) 有所見者とは、経過観察、要治療、要精査、治療継続に該当する者をいう。

年代・性	受診者数		胃部X線＋内視鏡検査結果内訳（人）						有所見者数		有所見者率	
			異常なし	軽度異常	経過観察	要治療	要精査	治療継続				
30代以下 男	674	1048	390	61	201	9	11	2	223	33.1%	30.8%	
女	374		242	32	93	2	5	0				100
40代 男	1175	2,040	548	82	492	23	27	3	545	46.4%	42.8%	
女	865		467	70	307	8	13	0				328
50代 男	1238	2082	443	79	659	29	23	5	716	57.8%	54.2%	
女	844		352	80	400	2	9	1				412
60代以上 男	754	1121	180	33	479	18	42	2	541	71.8%	70.0%	
女	367		104	19	234	1	9	0				244
合計	6,291		2,726	456	2,865	92	139	13	3,109	49.4%		



■ 異常所見別人数（疑いも含む）

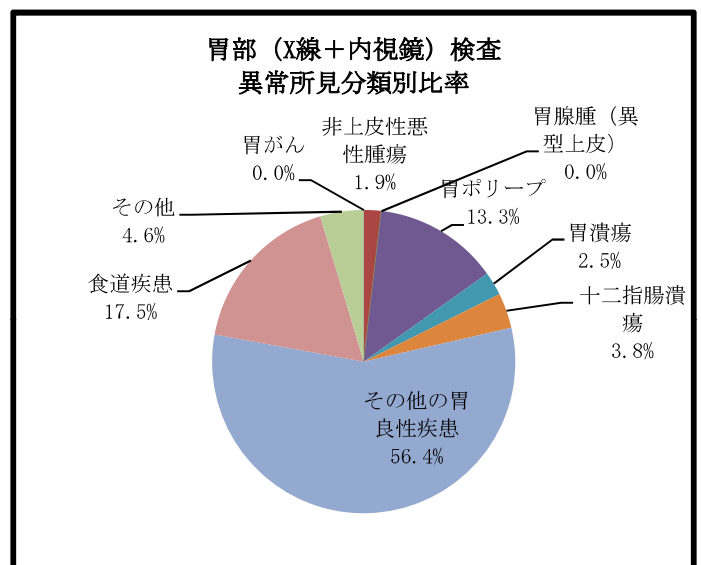
(注) 所見事由が1人複数ある場合は、主な所見をあげている。

所見事由	分類	人数	所見事由率
萎縮性胃炎	⑦	1,279	41.14%
ポリープ	④	413	13.28%
びらん	⑦	235	7.56%
逆流性食道炎	⑧	209	6.72%
食道裂孔ヘルニア	⑧	204	6.56%
慢性胃炎	⑦	128	4.12%
十二指腸潰瘍	⑥	117	3.76%
胃潰瘍	⑤	78	2.51%
バレット食道	⑧	60	1.93%
胃粘膜下腫瘍	②	58	1.87%
バレット上皮	⑧	50	1.61%
胃粘膜萎縮	⑦	36	1.16%
術後胃	⑨	35	1.13%
表層性胃炎	⑦	32	1.03%
胃下垂	⑦	27	0.87%
隆起性病変	⑨	22	0.71%
十二指腸炎	⑨	22	0.71%
胃陥凹性病変	⑨	13	0.42%
食道カンジダ症	⑧	9	0.29%
鳥肌胃炎	⑦	7	0.23%
萎縮性変化	⑨	7	0.23%
条件不良	⑨	6	0.19%
胃憩室	⑦	6	0.19%
粘膜不整	⑨	5	0.16%
十二指腸憩室	⑨	5	0.16%
食道腫瘍	⑧	5	0.16%
壁外性圧排像	⑨	3	0.10%
下垂胃	⑦	3	0.10%
毛細血管拡張	⑨	3	0.10%
迷入腺	⑨	2	0.06%
食道のう腫	⑧	2	0.06%
異所性胃粘膜	⑦	2	0.06%
バリウム斑	⑨	2	0.06%
胆摘後	⑨	2	0.06%
カンジダ食道炎	⑧	2	0.06%
瀑状胃	⑨	1	0.03%
辺縁不整	⑨	1	0.03%
平滑筋腫	⑨	1	0.03%
鼻中隔穿孔	⑨	1	0.03%
粘膜肥厚	⑨	1	0.03%
粘膜発赤	⑨	1	0.03%

所見事由	分類	人数	所見事由率
治療後	⑨	1	0.03%
二重輪郭	⑨	1	0.03%
体部ヒダ肥厚	⑨	1	0.03%
食道粘膜下腫瘍	⑧	1	0.03%
食道乳頭腫	⑧	1	0.03%
胃静脈瘤	⑨	1	0.03%
胃外石灰化像胆石	⑨	1	0.03%
ひだ集中	⑨	1	0.03%
バリウム付着不良	⑨	1	0.03%
伸展不良	⑨	1	0.03%
食道憩室	⑧	1	0.03%
腫瘍性病変	⑨	1	0.03%
残胃	⑨	1	0.03%
IIa様	⑨	1	0.03%
異常所見者（人・率）		3,109	49.42%

■ 異常所見分類別表

分類	疾患名	人数	発見率
①	胃がん	0	0.0%
②	非上皮性悪性腫瘍	58	1.9%
③	胃腺腫（異型上皮）	0	0.0%
④	胃ポリープ	413	13.3%
⑤	胃潰瘍	78	2.5%
⑥	十二指腸潰瘍	117	3.8%
⑦	その他の胃良性疾患	1,755	56.4%
⑧	食道疾患	544	17.5%
⑨	その他	144	4.6%



- ①2011年度の当法人の胃部検査（X線および内視鏡）有所見者状況については、受診者数が計6291名で、有所見率は、胃がん0.0%、非上皮性悪性腫瘍1.9%、胃腺腫（異型上皮）0.0%、胃ポリープ13.3%、胃潰瘍2.5%、十二指腸潰瘍3.8%、その他の胃良性疾患56.4%、食道疾患17.5%という結果であった。また、X線検査と内視鏡検査との比較では、食道疾患の発見率が内視鏡検査の方が高いという結果であった。
- ②「2010年度消化器がん検診全国集計（日本消化器がん検診学会）」からみた、2010年度の500万人規模での全国集計における消化器がん検診での胃部疾患の発見頻度は、胃がん0.15%程度、胃ポリープ1.3～1.6%程度、胃潰瘍0.8～1.1%と推計されている。
- ③2011年度の当法人のデータと2010年度の全国データを比較すると、受診者数の規模が圧倒的に異なるため、限られたデータから断定的なことは言えないが、当法人のデータでは胃潰瘍の発見率がやや高いように思われる。また、当法人のデータでは胃がんの発見率が0.0%との結果であったが、全国規模での発見率を考えれば、当法人での胃部検診の受診者数の規模が大きく影響している可能性があると思われる（その他の要因として、全国データと当法人とでは、胃部検診のデータ集計の方法に相違があるという可能性も考えられる）。

2010年度消化器がん検診全国集計（日本消化器がん検診学会）」（参考）

表8 発見疾患とその頻度（年次別推移）（男女計）

胃疾患	年度	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年
		A	5,477	5,302	5,268	5,494	5,304	4,732	4,790
胃癌	B	7,788	7,740	7,264	7,704	7,623	6,938	6,976	8,046
	B/C	0.15	0.15	0.14	0.14	0.15	0.14	0.15	0.14
	A	56,970	57,874	57,831	56,987	51,438	46,397	43,350	49,603
胃ポリープ	B	81,004	84,488	79,745	79,914	73,926	68,031	63,137	75,707
	B/C	1.58	1.65	1.55	1.49	1.42	1.33	1.33	1.30
	A	41,998	39,542	39,574	39,221	33,399	30,760	31,218	32,873
胃潰瘍	B	59,716	57,726	54,570	55,001	48,001	45,103	45,468	50,172
	B/C	1.17	1.12	1.06	1.02	0.92	0.88	0.96	0.86
	受診者総数	5,111,185	5,132,087	5,133,307	5,370,924	5,221,232	5,125,322	4,755,413	5,837,975

*性別、5歳階級別に集計可能な受診者数を母数とした

A:実数、B:要精検者が全員精検を受診した場合の推定数、C:受診者総数